

氏 名	宇野 吾一
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第443号
学位授与年月日	平成27年4月8日
審 査 委 員	主査 教授 京 哲
	副査 教授 並河 徹
	副査 教授 磯部 威

論文審査の結果の要旨

Barrett腺癌は食道癌の中で最も増加率の高い癌として近年注目されている。申請者らはNarrow band imaging (NBI) という特殊光を用いた拡大内視鏡観察を行い、簡便で汎用性の高いBarrett食道粘膜の分類法の構築を目的に研究を行った。Barrett食道を有する患者を対象としてNBI拡大内視鏡観察を行い、粘膜血管の密度と形態に基づいたCapillary pattern (CP) 新分類を提唱し、粘膜をType IとType IIに分類した。この新分類法と従来からの色素内視鏡検査で判定される粘膜表層構造に基づいたPit pattern分類との相関性、さらに発癌に関連するとされる各種因子の発現との関係、血管密度、CP分類の検者間一致率を検討した。従来法との比較ではCP Type IIにおいてBarrett腺癌やBarrett異形上皮で認められるpatternが多くみられ、また生検組織の免疫染色において、腸上皮化生、炎症、血管新生、細胞増殖のマーカー（それぞれCDX2、COX-2、CD34、PCNA）の染色性が高値であった。さらに異型病変は全てCP Type IIに分類された。多変量解析ではCP Type IIが異型病変の検出、CD34高値、PCNA高値を予測する因子として同定された。CP分類の検者間一致率もこれまで報告されている粘膜層構造に重点をおいた分類法よりもκ値が高く、優れているものと考えられた。これらの結果はBarrett食道において悪性度の高い粘膜を検出するのに新たに作成された内視鏡分類であるCP分類が有用であることを示しており、またその簡便性、汎用性を考慮すれば実地臨床への応用性が高く、十分に学位論文に値すると考えられた。